

〔大草殿より相傳之聞書〕うづらの羽ぶしもりの拵様の事、本膳の中にくむ事あり、集養はおなし事也、食をたべ候時は、鶴をばたべぬものにて候、食くいはて候へば御銚子參り、おのくひざを立られ候、時宜にて候に御酒三べん參りてより座中を見合、右の手にて鶴のだいを取あげ、左の手にそへて、鶴の左の羽がひの下を見る心もちして、又もとのごとく鳥のはしを我が前になし、鶴のくぐみたる花を右の手にて手折、左にもちたる鶴をばすこし持さぐるやうにして、花を先かんする也、其後本膳と二膳のあいだまへのた、みのかたへ花をおき、扱鶴のだいを右の手にて、取て、これも我右の二膳の前のた、みにをき、左の手をばつきて、右の手かた手にてをくなり、躰而左の手を鶴の臺に添て、右にて鶴の左の羽ぶしをぬきやりて、臺のあたりへをくさて又羽の内にいか程も集養ありたきほど、鶴もりたる身の右の手にて取おろし、羽の上に置て、其後又鶴の臺右の手にて取、左の手にすへ、能々かんじ、右の手にとり渡し、本の前にすゆる也、扱羽ぶしに置たるさかなを、右にて取左の手にすへ、右の手にて集養有也、又以前の所へをきて、御酒のあいだは幾度も集養あるなり、扱又御湯あがりはしをおき候て、しせんうづらのみ残り候は、なにとなく本膳に羽よりこぼし、扱又鶴の羽を右の手にて鶴にかぶせをく也、其後右の手にて花を取、少ほうびしてかくやうにして懷中する也、

## 〔厨事類記〕記云

晝御膳長日次

御厨子所備 高盛四坏 平盛二坏 已上銀  
〔厨事類記〕調備故實 窯器物 二坏 銀器

## 〔厨事類記〕窯器物

海月 老海鼠或稱夜也 牟々跋裏 鯛醬

海月ハ、或說云、酒ト鹽トニテメデタクアラヒテ、方ニキリテ、鰹ヲ酒ニヒタシテ、其汁ニテアフベ